

JOMF 派遣医師便り (2018. 7)

◆マニラ◆

マニラ首都圏レプトスピラ症のアウトブレイク！

フィリピン厚生省 (DOH)

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

このたびの西日本での豪雨災害により被災されました方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

The Department of Health (DOH) on July 5th declared an outbreak of leptospirosis in 18 barangays in Metro Manila. (ABC-CBS news のインターネット版より)

上記のように7月5日、フィリピン厚生省により「マニラ首都圏にレプトスピラ症のアウトブレイク」が発令されました。

レプトスピラ症は保菌動物のネズミ、犬、ブタ、家畜などの尿などによって汚染された洪水の水や泥などとの接触や経口感染によって起こる細菌感染症です。

DOHによれば、2018年1月から7月3日までに368名の患者が報告され、このうち52名が亡くなっています。

アウトブレイクの指定がなされた地区にはケソン市や日本人学校が位置するタギック市も含まれています。

レプトスピラ症の症状は発熱、頭痛、筋肉痛、結膜充血などのインフルエンザやデング熱とよく似た症状を伴いますが、重症化すれば黄疸や出血、腎不全(ワイル病)、ショック、死に至ります。

フィリピンは現在雨期です。数時間の雨が降れば道路は冠水し、汚染された水が道の上を流れ、低地に大きな水たまりを作ります。必要に応じて長靴を履いたり、下肢の外傷に気を付けるなどの注意が必要です。